

葬儀と和讃

先々月から葬儀関連の仏事でつとめるご和讃について掲載しています。今月は葬場勤行(葬儀)でつとめるご和讃のお示しを皆さんとともに味わいたいと思います。

葬場 勤行

(原文)

本願力にあひぬれば

むなくすぐるひとぞなき

弘徳の宝海みちみちて

煩惱の濁水へだてなし

(現代語)

本願のはたらきに出会ったものは、むなく迷いの世界にとどまることがない。あらゆる弘徳をそなえた名号は宝の海のように満ちわたり、濁った煩惱の水であつても何の分け隔てもない。

(原文)

如来浄華の聖衆は

正覚のはなより化生して衆生の願樂ごとごとくすみやかにとく満足を

(現代語)

阿弥陀仏の浄土の聖者がたは、さとのり花からおのずと生れ、あらゆる願いが速やかに満たされる。

葬場勤行では、「正信念仏偈」に続き、この二首をつとめます。

この二首は『三帖和讃』の中、「高僧和讃」天親讃にあります。

天親とはインドの菩薩さまで七高僧の一人です。『浄土論』というご書物を書かれました。ですからどちらのご和讃も『浄土論』を依りどころとしています。

まず一首目ですが、「へだて」という語が出ています。これはものをさえぎるといふことです。濁った水はものを

透き通すことがありません。それと同じように煩惱も私たちの視界をさえぎり、ものをありのままに見せてくれません。そこで煩惱の濁水といわれ、私たちが生死の苦海に沈めてきたのです。

そんな私たちが阿弥陀如来の本願のはたらきにお会いすれば、空しいときを過ごすことなく、功德が身に満ちて、濁った水のような煩惱も仏への妨げになることはないとお示しください。

故人を送る儀式にあたり、私たちは、「本願力に遇う」ことのありがたさを聞かせていただくのです。

二首目、「化生」という語があります。仏教では、誕生の仕方を次の四種に分類して

- 胎生：人間のよう母胎から生まれること
- 卵生：鳥等のように卵から生まれること
- 湿生：うじ虫などのように湿度の中から生まれること

と 化生：神のように依りどころなく忽然と成人のまま生まれること

このご和讃の「化生」は前記四分類によるものではなく、浄土で仏になることを意味しています。

このご和讃は、如来の清らかな花の中の聖なる方々は、さとのり花に生まれでて、あらゆる人々の願うところを、即座に備えていることをお示しください。

また、「願樂」とは願いのことですが、私たちの欲望を満たすような願いではなく、衆生が究極に求めるもの、すなわち、煩惱による生き死にを繰り返すことがなくなる「無生の生」といわれるものなのです。

お浄土に救われた故人と同様に私たちも、阿弥陀さまのおはたらきで「無生の生」のお慈悲を賜われるといただきます。

(和讃二首の原文・現代語は、紙面の都合上字体を小さくしました)

法語の世界

〈原文〉

徳大寺の唯蓮坊、撰取不捨のことわりをしりたきと、雲居寺の阿弥陀に祈誓ありければ、夢想に、阿弥陀のいまの人の袖をとらへたまふに、にげけれどもしかととらへてはなしたまはず。撰取といふは、にぐるものをとらへておきたまふやうなることと、ここに思ひつきたり。これを引き言に仰せられ候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 二百五)

〈現代語訳〉

徳大寺の唯蓮坊が「撰取不捨」とはどういうことなのか知りたいたいと思つて、雲居寺の阿弥陀に祈願しました。すると、夢の中に阿弥陀仏が現れて、唯蓮坊の衣の袖をしっかりととらえ、逃げようとしてもけつしてお放しにならなかったのだそうです。この夢によつて、撰取といふのは、逃げるものをとらえて放さないようなことであると気づいたといひます。蓮如上人はこのことをよく例に引いてお話しになりました。

法事日時について

法事の日時について、ご連絡をいただいた順に日程を決めています。希望の日時がありましたら、早目にご連絡ください。

なお、年回忌法要はお命日を過ぎてつとめても大丈夫です。

初盆会の日程について

毎年、初盆会にご連絡を頂いた順に日程を決めています。本年初盆をお迎えするお宅で、時間を決めて法要後のお齋をお考えのところは早目にご連絡ください。

なお、下記は日程が決まっています。

記

8月13日 10時、11時、12時、13時、14時

8月14日 11時、12時、15時

